

さいたま市立内谷中学校

白いノート

教育目標 ・進んで学ぶ ・心豊か ・たくましく

令和 元年 6月 1日

〒336-0034 さいたま市南区内谷 6-10-1 Tel 048-861-7571 <http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>



第461号

## 「当たり前のこと」

校長 丹 能成

梅雨の季節となりました。6月1日(土)から学校総合体育大会が始まります。5月20日(月)に行われた壮行会では、各運動部の部長が大会への意気込みや抱負を発表しました。どの部の部長も堂々とした立派な態度で、とても頼もしく感じました。3年生にとっては最後の大会です。悔いの残らぬよう、力を出し切ってほしいと思います。

さて、5月10日(金)の朝礼で、私は、生徒たちに「凡事徹底」ということについて話をしました。これは、イエローハットの創業者の 鍵山 秀三郎(かぎやま ひでさぶろう)さんの考え方で、「当たり前のことを徹底して行う」「当たり前のことを他人には真似できないほど一生懸命やる」という意味があります。鍵山さんは、自身の生き方について、「私は、才能も能力もないから、誰にもできることを、誰にもできないくらいやってきた。」と言っています。また、「誰もが特別なことをしますが、世の中に特別なことなんてありません。ないものを探しているうちに、一生が終わってしまいます。でも、平凡なことなら、いくらでもあります。その一つひとつを大切にしていけば、やがて大きな力になります。」と言っています。

未来の自分をつくるのは、今日の自分です。生徒たちには、当たり前のことをおろそかにせず、一日一日を丁寧に積み重ね、自らを高めていってほしいと願っています。

6月は「いじめ撲滅強化月間」です。さいたま市の各学校において、いじめの問題について考え、いじめが起きない集団や学校を作ろうとする意識を高める取組を実施します。本校でも、各クラスでの意見交換やスローガン作成等を行います。

いじめは、決して許されない行為であり、絶対にしてはいけません。当たり前のことです。しかし、いじめは、世の中からなくなりません。私は、いじめの話を目にするたびに、悲しい気持ちになります。そして、腰塚 勇人(こしづか はやと)さんの「5つの誓い」を思い出します。

### 《5つの誓い》

口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう。

耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。

目は、人のよいところを見るために使おう。

手足は、人を助けるために使おう。

心は、人の痛みがわかるために使おう。

腰塚さんは、中学校の教員だった2002年、36歳の時、不慮の事故により頸椎を骨折し、下半身と右半身の麻痺などの障がいを残しながらも、事故から4か月後、担任として復帰を遂げました。腰塚さんは、入院、リハビリをする中で、自分の命が活かされ、周りの人たちに支えられていること、命あることも生きていることも当たり前ではないことに気がきました。そして、社会復帰する際、自分の命の使い方を真剣に考え、自分と他人の命を傷つけないこと、自分と他人の命が喜ぶ生き方をすることを自身に誓いました。それが、この「5つの誓い」です。

私は、思います。一人ひとりが、自分と他人の命が喜ぶ生き方をしようと心がければ、いじめのない世の中になるのではないかと。